

優秀賞

生活施設
(関東地区)

中央区立中央小学校・中央幼稚園

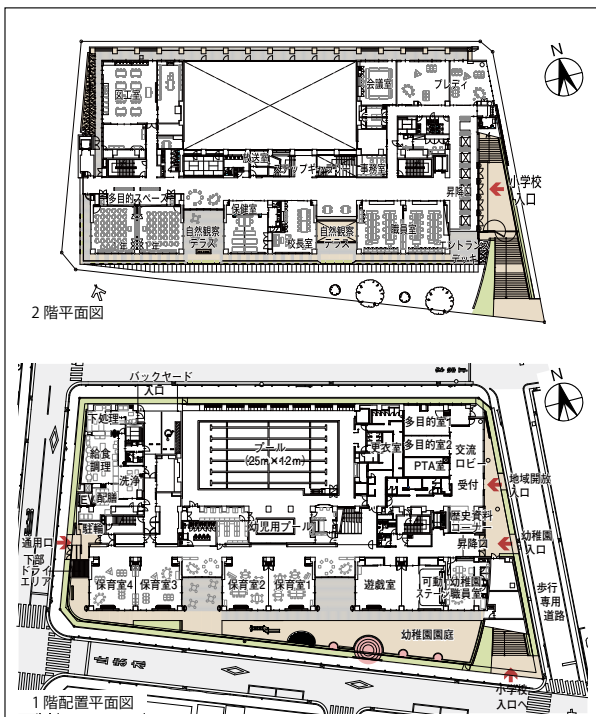


狭小な敷地にコンパクトに積層させた、都心の「地域開放型学習拠点」



2クラス1ユニットの学年ごとの多目的スペースから見る2面採光・2面採風の普通教室

所在地	東京都中央区湊 1-4-1
敷地面積 (m ²)	3,667.33
建築面積 (m ²)	2,876.20
延床面積 (m ²)	12,203.24
構造/階数	RC造、一部S、SRC造/地上5、地下1
事業者	中央区長 矢田美英
設計者	(株)久米設計
施工者	芦田・伊藤組・白岩建設JV、戸田建設(株)
竣工年月	2012(平成24)年8月
総工事費	3,683百万円



中央区立中央小学校・中央幼稚園は、都心の狭小地という制約の中で、「地域開放型学習拠点～家庭・学校と地域をつなぐ学びの拠点」という理念を達成すべく、さまざまな建築上の工夫が凝らされた建物である。

屋上にはドーム型開閉式屋根を備えた屋上校庭が配置され、建物内部では、幼稚園・学校をつなぐステップギャラリーが魅力的な空間を創出している。隣接する震災復興公園側にアプローチを集約し、公園との間の道を歩行者専用道路とすることで公園と校舎を一体化させ広がりを持たせた設計は見事といわざるを得ない。また、自然採光の工夫が随所に見られ、上履きで出入りできる半屋外の「自然観察テラス」は子どもたちの豊かな心に育成に役立っていると感じられる。

屋上工程およびプールは学習で使用する時間以外は地域に積極的に開放されており、利用率も高い。中央区という土地柄を反映して、旧校舎に2代、3代と通っていた世帯も多く、行事のたびに校舎や隣接公園が活動拠点となり、心のよりどころとなっている地域であることを重視し、地域住民と学校・PTAが構想検討から設計段階まで参画した成果が表れているといえよう。

新校舎の昇降口には、震災復興小学校として建てられた旧校舎のファサードが復元されている。卓越した職人技術により復元されたファサードは機能的な現代建築に重みと深みを与えており、公立学校が「地域」や「その土地の記憶」と切り離せない存在であることを教えてくれる施設である。

地域開放型学習拠点～家庭と地域をつなぐ学びの拠点～

本施設は、建物の老朽化や、教室不足、狭小な校庭など新しい教育に対応が困難なことから改築工事に着手しました。建物計画においては、木のぬくもりを感じさせるため、屋内・屋外とも無塗装木材の利用や、多様な教育形態に対応できるように、空間を仕切らずに多目的スペース等を設けています。また、可動屋根付の屋上校庭、体育館及び温水プールなどの学校施設の地域開放を行っているとともに、隣接する震災復興公園である鉄砲洲公園と一体的に利用を行うことも可能です。今後も家庭と地域をつなぐ学びの拠点として、利用しやすい施設づくりを行ってまいります。

(芳賀誠・中央区都市整備部営繕課長)